

# SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

## 6年間のあゆみ 2004-2009

第1期中期目標 暫定評価結果報告

### 目次

法人化第一期を終えて	1
滋賀医科大学の6年	3
教育について	5
平成22年医師国家試験 合格率全国1位	
教育改革プログラム等の採択	7
研究について	9
診療について	11
病院再開発ハイライト	13
地域貢献について	15
業務改善について	16
財政について	17
独自の取組事例集	19
暫定評価結果について	21

文部科学省の国立大学法人評価で  
86国立大学中 2位



国立大学法人

滋賀医科大学

# 法人化第一期を終えて

平成16年4月国立大学法人法のもとに、明治以来わが国の高等教育を担ってきた国立大学は、その管理運営体制の根本的な変革を余儀なくされました。

第一期中期目標期間の6年間、中期目標と中期計画のもとに年度計画をたて、報告書を提出して評価を受けてきました。

毎年の評価では、様々な課題の指摘を受けましたが、それらの課題は、全て次年度に改善あるいは実行されました。これは、教職員、学生を含む全構成員の理解と協力のもとに、計画の立案、実行、年度途中でのチェック、そして改善に向けたPDCA（Plan, Do, Check, Action）が着実に実行された賜物によるものであります。

また、平成20年度には4年間の教育研究業務を改めてまとめて、暫定評価を受けました。本学の暫定評価結果は、本誌の21・22ページに示すとおり、「達成状況が良好である」でした。そして、86国立大学法人の中で第2位という輝かしい評価を得ることができました。

一方、国立大学法人として共通の課題は、運営費交付金の毎年1%削減と人件費5年間5%の削減による教育・研究・診療などの運営面での厳しい状況であり、また、病院を持つ大学では、





医療従事者に対する労働基準監督署の指導・改善命令などがありました。さらに、大学として最も重要な研究の量的・質的低下が認められたことであります。

法人化を迎えて、当時の吉川隆一学長は画家ゴッホの「我いずこより来るや、我ら何者なるや?我いずこへ行くや?」という言葉を用い、まず、「我ら何者なるや?」に答える必要があると言っています。本学は、地域を基盤として、教育・研究・診療を展開し、さらに研究成果を加え、医療・福祉の発展に貢献する第一歩を確実に踏み出すことができました。

しかし、「本学がどこに向かっていくのか」は、教育・研究・診療の基盤を決定づけるわが国の高等教育政策に大きく左右されるという現状ではありますが、第一期の成果を基盤に、本学の将来の発展に向けて、全職員がたゆまぬ努力を重ねることに懸かっています。

ばんばただお  
学長 馬場忠雄  
(2008.4.1~ )

## ● 滋賀医科大学の理念

滋賀医科大学は、地域の特徴を生かしつつ、特色ある医学・看護学の教育・研究により、信頼される医療人を育成すること、さらに、世界に情報を発信する研究者を養成することにより、人類の健康、医療、福祉の向上と発展に貢献する。

## ● 第一期中期目標前文

滋賀県は現在、人口の増加率が日本一高い県であり、「近い将来には、高齢化率が一番低い県（一番若い県）になる」と予想されている。このように増え続ける県民に対して、安心・安全な医療を提供すること及び住民のニーズにあった福祉と医学情報を提供することは重要な課題である。

また、滋賀県は中央に琵琶湖があるために、結果として環状になっている細長い県といえる。このため地域間のコミュニケーションが比較的とりにくく、医療機関や医療情報のネットワーク構築が求められている。

滋賀医科大学は、このような地域の特徴を考慮しつつ、独自の新しい医学・看護学の教育・研究を推進するとともに、その成果を滋賀の地から国内はもとより世界に発信し、医学・看護学の発展に貢献すること及び高度な医療を提供することによって、人々の福祉の向上に寄与することを目標とする。

これらの目標を達成するために、構成員の「競争（個性化）」と「協調（和）」を軸にして、組織運営にあたる。また、教育・研究・医療の一層の充実と基盤強化の観点から近隣の大学との再編・統合を検討する。

# 滋賀医科大学の6年

## 社会

- 国立学校設置法の廃止及び国立大学法人法の施行
- 新医師臨床研修制度（必修化）の導入

- 「新医師確保総合対策」を取りまとめ（医師不足が深刻な10県に各10名の入学定員増員）

## 2004 平成16年

## 大学

- 国立大学法人滋賀医科大学が設立
- 吉川隆一学長のもと、第一期中期目標・計画がスタート



- 医療人育成教育研究センターを設置
- 寄附講座「睡眠学講座」を開設
- 「産学連携によるプライマリ・ケア医学教育」が文部科学省「現代GP」に採択
- 開学30周年記念式典を開催

## 2005 平成17年

- 基礎医学講座を再編
- 看護学科に助産師課程を設置



- 「眠りの森」事業が経済産業省事業に採択
- 県民アンケート調査を実施
- 「一般市民参加型全人的医療教育プログラム」が文部科学省「医療人GP」に採択

## 2006 平成18年

- バイオメディカル・イノベーションセンターを設置



- 保育所の開設
- 大学ベンチャー企業「マイクロン滋賀」の起業

## 附属病院

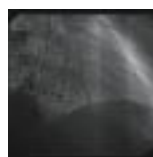
- 中央診療施設等及び特殊診療施設を改組、中央診療部(15部)、医療安全管理部、地域医療連携部、医療研修部、卒後臨床研修センター及び治験管理センターに再編
- アミアン・ピカルディ大学病院（フランス）と学術交流協定を締結

- 不整脈センターを開設

### 不整脈センター

カテーテルアブレーション

メスを使わず、不整脈の原因となる異常な箇所をカテーテルで焼灼する治療法。



- 炎症性腸疾患センターを開設
- 産科オープンシステム運用開始（国立大学附属病院初）
- ペインクリニックセンターを開設

- 病院玄関へのバス乗り入れ開始



- 病院敷地内全面禁煙を実施
- チョー・ライ病院（ベトナム）と国際交流協定を締結



- 「緊急医師確保対策」を取りまとめ（国立大学：今後9年間、最大5名の入学定員増員）

- 「経済財政改革の基本方針 2008」を閣議決定（医師不足対策として120名を上限として入学定員の増員）

- 「経済財政改革の基本方針 2009」を閣議決定（地域医療再生計画に基づき、奨学金を活用した入学定員の増員を容認）

2007 平成19年

- 「高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成」が文部科学省「がんプロフェッショナル養成プラン」に採択
- 「再就職及びキャリアアップを可能にするための新しい実践的な臨床心理士研修コース」が文部科学省「社会人の学び直しニーズ対応教育推進プログラム」に採択
- 地域「里親」による学生支援が文部科学省「学生支援GP」に採択
- 滋賀県からの寄附講座「地域医療システム学講座」を開設
- 家庭医療学講座を開設
- 「学内ESCO事業」が省エネルギーセンター会長賞を受賞

- 腫瘍センターを開設
- 新病棟（D病棟）竣工



2008 平成20年

- 馬場忠雄学長のもと新執行部がスタート
- 「びわこバイオ医療大学間連携戦略」が文部科学省「戦略的大学連携支援事業」に採択
- 長浜バイオ大学と「戦略的大学連携支援事業」に関する協定を締結
- 膳所高校・虎姫高校と高大連携事業協定を締結
- 滋賀短期大学と包括協定を締結
- ホーチミン医科薬科大学（ベトナム）と学術交流協定を締結
- ミシガン州立大学連合日本センターと交流協定を締結

- 感染制御部の設置
- 回復期リハビリテーション病棟を開設
- 患者支援センターを設置
- 「コア生涯学習型高度専門医養成プログラム」が文部科学省「大学病院連携型高度医療人養成推進事業」に採択



- 開院30周年記念事業を実施
- 滋賀県がん診療高度中核拠点病院に指定

2009 平成21年

- 滋賀県からの寄附講座「総合がん治療学講座」を開設

総合がん治療学講座

醍醐教授

高い論理性と科学性に基づいた新しいがん医療の開発と人材育成を推進します。



- 医学部医学科入学定員を10名増員
- 大学機関別認証評価の認定
- 東北大学(中国)と学術交流の協約を締結
- オタワ大学(カナダ)と学術交流協定を締結

- 医師臨床教育センターを設置（卒後臨床研修センター廃止）
- 病院機能評価（Ver.5.0）の更新認定
- 滋賀県肝疾患診療連携拠点病院に指定
- 文部科学省「周産期医療環境整備事業（NICU等整備）」に採択  
NICU:9床、GCU:6床に増床
- 「スーパーナース育成プラン」が文部科学省「看護職キャリアシステム構築プラン」に採択
- 腫瘍内科の設置
- 文部科学省「周産期医療環境整備事業（院内助産所等整備）」に採択
- 看護臨床教育センターを設置

看護臨床教育センター

澤井センター長

スーパーナースとは、看護学生から現役看護師まで幅広く指導できる総合的な看護教育者です。



# 教育について



理事 服部隆則

第一期中期目標の達成状況について、教育に関して「おおむね良好」、研究に関して「良好」との評価を得ました。個々の項目についてのアウトラインを以下に示しますが、評価結果を分析し、以後の改善に繋げなければなりません。医師、看護師、保健師と助産師などの国家試験の高合格率は誇れるものではありますが、将来的に維持する努力が必要です。

第一期中期目標期間の最終年に10名の医学科の入学定員の増員がありましたが、第二期中期目標期間の初年度にも5名の増員があり、本学の入学定員は115名となります。医学科では志願者数が増え、平成21年度には倍率が5.6倍となりました。大学院教育ではカリキュラム改訂、組織の改編等により実質化を行っています。研究では、5つの重点プロジェクトを中心として高い評価を受けました。第二期中期目標期間においても、これらの実績を踏まえ、研究の発展に尽力します。



## 大学機関別認証評価認定証

学校教育法第109条第2項の規程に基づき、大学評価・学位授与機構が実施する認証評価を受審し「大学評価基準を満たしている」と認定されました。  
(平成22年3月29日)

Data

## 医学部 入学志願者数

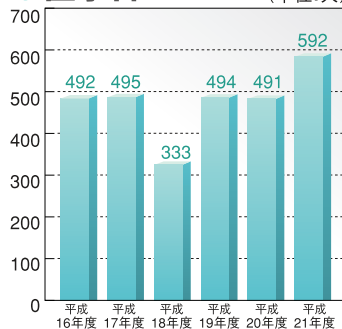
平成18年度より**後期入試を廃止**、平成19年度に**入試方法の変更**を行いました。

### 入試方法変更点

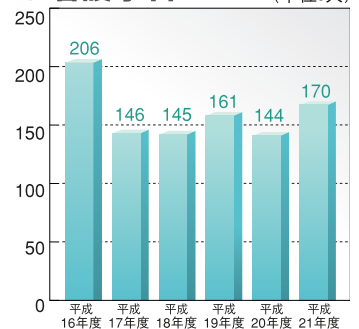
- 医学科  
センター試験と個別学力試験の配点を変更
- 看護学科  
個別学力試験を総合問題から小論文に変更

平成21年度の医学科志願者数は、過去最多の592名でした。

### 医学科 (単位:人)



### 看護学科 (単位:人)

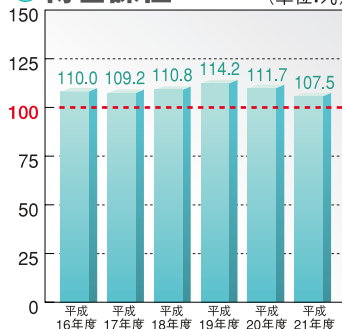


Data

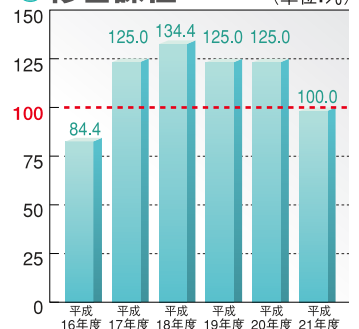
## 大学院 定員充足率

- 6年間の大学院収容定員の充足率は、ほぼ100%を維持していますが、志願者数は減少傾向にあります。
- 博士課程では専門医と学位の同時取得を希望する志願者が多いので、平成20年度から**高度専門医養成コースを開講**しました。
- 平成22年度からは**秋入学制度を導入**しました。

### 博士課程 (単位:%)



### 修士課程 (単位:%)



Data

## 国家試験合格率

中期計画に設定した国家試験合格者をほぼ達成し、6年間、**高い合格率を維持**しています。

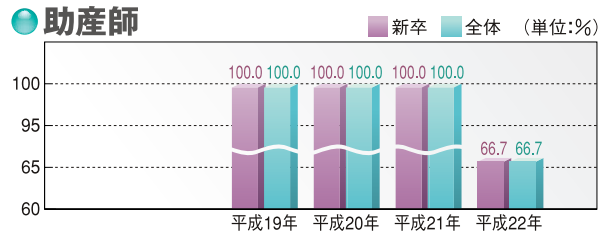
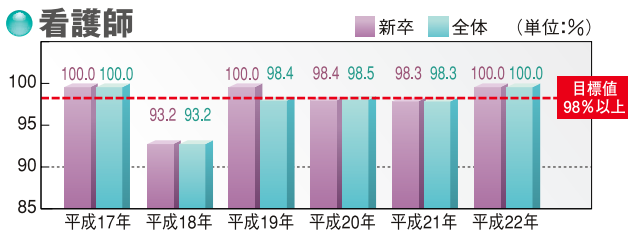
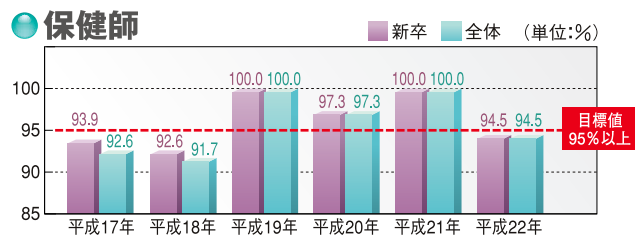
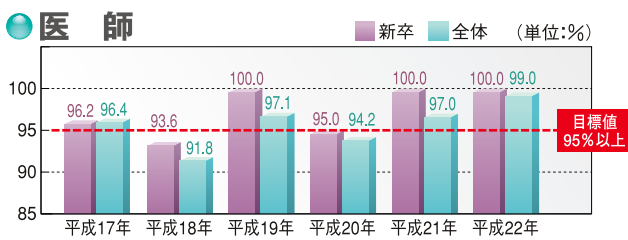
しかし、平成18年に実施された国家試験においては、目標値を下回ったため、全学科において右記のような取り組みを行いました。

平成19年は全ての国家試験において**新卒者合格率は全て100%**という結果をおさめました。これは開学以来の快挙です。

### 国家試験対策

- 成績下位20名の学生に、学習や生活への個別指導や助言を行う後期アドバイザー制度を導入
- 卒業論文指導教員による復習や国試対策へのきめ細かな指導
- 従来より行っていた補講の内容を充実

## 平成22年医師国家試験合格率は**99.0%**で**全国1位**



平成17年度より看護学科に助産師課程を設置しました。国家試験は平成19年から受験しています。

Data

## 医学部 教員一人あたりの学生数

- 教員が、入学初年度の学生約3~7名を受け持ち、身近な存在としてアドバイスを行う「**アドバイザー制度**」を導入しています。
- 受け持ち学生との面談を行い、精神面や進路相談、クラブ活動、あるいは、経済面等、様々な悩みの相談相手となります。





## 1 現代的教育ニーズ 取組支援プログラム

### 産学連携によるプライマリ・ケア医学教育

**期間** 平成16年度～平成17年度

**助成金** 56,478千円

**概要** 地域医師会と連携し、地域のプライマリ・ケア医（かかりつけ医）を教育担当者とした「診療所実習」を組み入れた臨床実習を実施。また、地域保健・医療を担うプライマリ・ケア医の生涯教育を充実し、地域保健・医療レベル全体を向上しようとする取組です。



**成果** プログラムで実施した「診療所実習」を正規の授業科目に取り入れました。

#### 「診療所実習」とは…

専門分野以外にも一般医として幅広く全人的に診療できるプライマリ・ケア医を育成することを目標に、地域保健・医療を担う開業医や診療所のプライマリ・ケア医を教育担当者とした「診療所実習」を5年次の臨床実習に組み込みました。

## 2 がんプロフェッショナル 養成プラン

### 高度がん医療を先導する人材養成拠点の形成

**期間** 平成19年度～平成23年度

**助成金** 58,633千円

**概要** 京都大学と本学、三重大学、大阪医科大学が共同で行うプログラムです。各大学が蓄積するがん研究の基盤をさらに発展させながら、集学的医療を担うがんセンターなどにおける教育基盤を強化・整備し、がんのチーム医療を理解し、実践できる、がん医療の担い手となる質の高いがん専門医育成を目指す教育プログラムです。本学ではがん専門医養成コースとして4コースを開設しています。

**成果** がん専門医養成コースでは、がん関連の専門医を目指す実践的なカリキュラムを組んでいます。平成21年度から、学位取得とともに専門医の資格を目指す「高度専門医養成部門」を各専攻に開設しました。「医療倫理学」、「医薬品学」、「医療情報処理学」など、専門医に必要な基盤的知識と学生を目指す専門領域を学ぶ選択科目を学ぶことができます。

## 3 社会的ニーズに対応した質の高い 医療人養成推進プログラム

### 一般市民参加型全人的医療教育プログラム

**期間** 平成17年度～平成19年度

**助成金** 73,062千円

**概要** 一般市民直接参加型の3つの医学教育プロジェクトを実施し、これらによって全人的医療を実現できる医師の養成を目指すものです。

#### 【一般市民直接参加型の3つの医学教育プロジェクト】

**A** 6年間一貫患者訪問実習

**B** 全学年一般市民参加型面接医療実習

**C** 全人的医療・学年縦断グループ能動学習と市民・学生参加シンポジウム



**成果** プログラムで実施した「患者訪問実習」を「全人的医療体験学習」として正規の授業科目に取り入れました。

#### 「全人的医療体験実習」とは…

- 疾病のみに注目することなく、一個人として患者に適切な対応ができる医師となるために、継続的な患者訪問を通じて、患者をとりまく状況を幅広く捉えながらケアを行う全人的医療について学ぶことを目的としています。
- 医学科1・2年の選択科目として、学生は患者及びその家族を訪問し、医師に求めているものが何か、良医とは何かなどを一般市民から直接学び、学習終了時には、患者本人と家族、および診療所主治医からの評価を受けます。

## 4 新たな社会的ニーズに対応した 学生支援プログラム

### 地域「里親」による医学生支援

**期間** 平成19年度～平成22年度

**補助金** 73,836千円

**概要** 地域の医療を担う医師・看護師の育成をめざす地域参加型学生支援事業。深刻化する地方の医師、看護師不足を解決するために、地域で活躍している同窓生や地域に暮らすみなさんに協力をお願いして、さまざまな支援を行いながらその成長を見守っていこうというものです。





## 5 社会人の学び直しニーズ対応 教育推進プログラム

再就職及びキャリアアップを可能にするための  
新しい実践的な臨床心理士研修コース

**期間** 平成19年度～平成21年度

**助成金** 35,587千円

**概要** 心理学の修士・博士課程を修了後に就業中だがスキルアップしたい方、または就業していない方、就業したいが実務経験がない方に対し、臨床心理士として役立つ実践的な臨床心理学の教育プログラムを提供します。



**成果** 臨床心理士の実践教育を受けることにより、多角的、また実践的な知識を得ることができました。受講生より「非常に有意義であった」との評価を得ました。

## 6 看護職キャリアシステム 構築プラン

スーパーナース育成プラン

**期間** 平成21年度～平成25年度

**助成金** 98,000千円

**概要** 「スーパーナース」は、看護学生から現役看護師まで幅広く指導できる総合的な看護教育者でもあり、「スーパーナース」を通して現役看護師の技能・看護の質の向上をサポートするほか、豊富な臨床経験を生かし、本学看護学科の教員と共同で学生の教育を担います。

## 7 大学教育充実のための 戦略的大学連携支援プログラム

びわこバイオ医療大学間連携戦略

**期間** 平成20年度～平成22年度

**助成金** 56,253千円(本学分)

**概要** 本学の「医学」と長浜バイオ大学の「バイオテクノロジー」というそれぞれの得意分野を生かして新しいバイオサイエンスと医学・看護学の融合した教育・研究分野の創設を目指しています。連携授業・実習を行い、バイオの先端知識と病気や体の仕組みを理解した人材育成を共同で実施します。



**成果** バイオインフォマテクスなど最先端のバイオ技術を学生に教育可能となり、アンケート結果も好評で高い教育効果が得られました。三姉妹校事業などの共同実施により、長浜バイオ大学大学院修士課程と本学大学院博士課程を連携させた高等教育システムが構築できました。臓器の3D画像などの新しい教材を開発しました。

## 8 大学病院連携型高度医療人養成 推進事業プログラム

コア生涯学習型高度専門医養成プログラム

**期間** 平成20年度～平成24年度

**助成金** 277,760千円

**概要** 全30専門医の資格取得可能なコースを設定しており、高度救急医療研修システム、各種手技のスキルズラボ実習、関連病院の実地臨床研修、各種セミナーなどを実施し、高度で実践的かつ倫理性・科学性に富んだ専門医育成を目標とするものです。

### 特色ある教育



### 倫理教育

倫理教育の一環として、解剖体慰霊式に、医学科第1・2学年、看護学科第1学年が参加し、献体による解剖のみならず、病理解剖および法理解剖の対象となった方々、その遺族の心中に思いを馳せ、生命の尊厳や人権について考え、医療人を目指す者としての自覚を持つ機会としています。

献体の受入からご遺族への返骨までを学生の手で行っています。これは、全国でも稀な取組です。具体的には、献体受入式に学生が教職員と共に参加しご遺族と対面する機会としています。また、解剖実習後の納棺、慰霊法要での納骨・返骨も学生の手で行っています。

# 研究について

Topics

## 6年間の特徴的な研究成果

### 1 ナノ粒子の医学への応用



生命科学講座(化学) 小松 准教授

微小なダイヤモンド粒子（ナノダイヤモンド）を用いたイメージングプローブの開発に成功しました。これにより、小さながん細胞や病原体を見つけることが可能になり、疾患の早期発見に役立つと考えられます。

### 2 新型インフルエンザウイルスの研究



病理学講座 小笠原 教授

新型インフルエンザウイルスの研究において、東京大学医科学研究所と共同でカニクイザルを使用した感染実験を行いました。その結果、季節性インフルエンザに比べ肺での増殖性が強いことが明らかとなりました。

### 3 サルを用いた iPS 細胞研究



動物生命科学センター 鳥居 教授

カニクイザルの中に移植免疫に関わるMHC遺伝子をホモにもつ個体を見出し、同時にiPS細胞の樹立にも成功しました。これらの個体からMHC遺伝子均一型集団を作製し、細胞移植によりiPS細胞の安全性と機能性を評価し、再生医療研究を加速化させる予定です。

### 4 アルツハイマー病のMR画像診断薬の開発



分子神経科学研究センター 遠山 教授

フッ素MR画像法を用いたアルツハイマー病の診断薬を開発し、論文発表をするとともに、特許を申請しました。モデル動物を用いて筋萎縮側索硬化症（ALS）の免疫療法に成功しました。アルツハイマー病の早期診断やALSの治療法の開発に役立つと考えられます。

### 5 マイクロ波デバイスの開発



外科学講座 谷 教授

オープンMR下でのインターベーションにマイクロ波を用いた経験に始まり、マイクロ波を用いた様々な手術支援デバイスの開発に成功し、マイクロ波全体を滋賀医大発のデバイスとする可能性が出てきました。海外などで高い評価をうけ、事業化を進めています。

### 6 生活習慣病に関する国際的な大規模疫学研究の推進



生活習慣病予防センター 上島 特任教授

生活習慣病に関する国際的な大規模疫学研究を推進し、国民の代表サンプル約1万人の19年間の追跡調査により、循環器疾患のリスク評価チャートを作成したNippon Data80の提供など学術的価値が高いのみならず社会的意義も高い研究成果が得られました。平成20年度日本医師会医学賞を受賞しました。

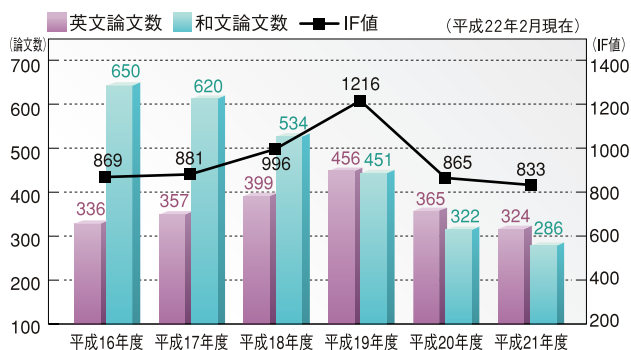
Data

## 論文数及び IF (Impact Factor) 値

- 和文論文では総説が主となり、総説的な論文は全国的に減少傾向です。
- 英文論文数とIF総計が減少していることから、**研究の再活性化**を図らなければなりません。

### 「IF (Impact Factor)」とは

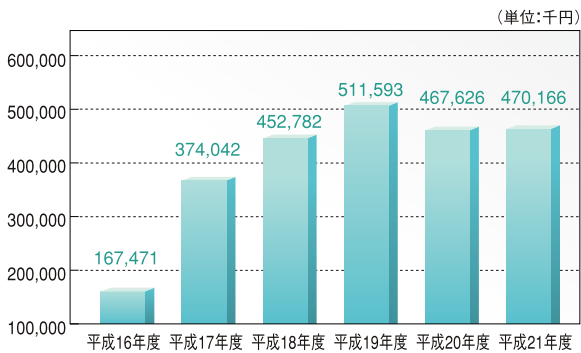
学術雑誌の影響度を示す指標で、インパクトファクターが高いほど影響力の高い論文を掲載しているといえます。



Data

## 5つの重点プロジェクトの外部資金獲得額

- 「何でもできる大学」ではなく「何かができる大学」を目指し、本学の特徴を生かせる5項目の重点プロジェクトを推進しました。
- 学外で認められるような研究成果、共同研究、寄附金等が増加したため、5つの重点プロジェクトにより獲得した外部資金は**6年間で約3倍**となりました。



### 5つの重点プロジェクト

#### 1 サルを用いた医学研究

鳥インフルエンザワクチンの開発、再生医療への応用に向けて

#### 2 核磁気共鳴(MR)医学

体への負担が少ない治療(低侵襲治療)を目指して

#### 3 神経難病研究

アルツハイマー病・神経難病の早期発見・治療を目指して

#### 4 生活習慣病医学

動脈硬化症・メタボリックシンドロームなどの予防のために

#### 5 地域医療支援研究

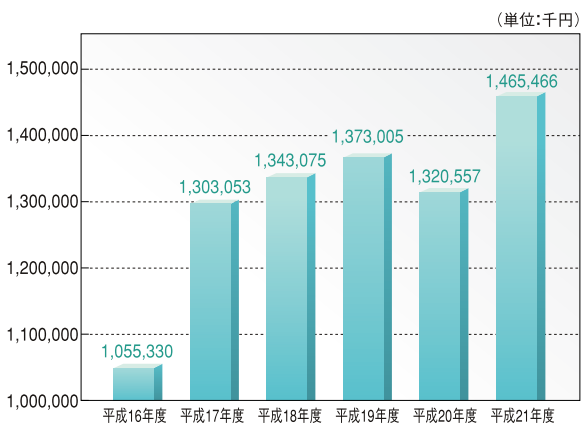
保健・医療・福祉・教育の連携を促進

Data

## 大学全体の外部資金獲得額

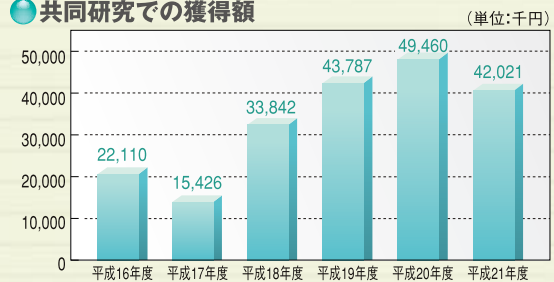
平成16年度以降、外部資金獲得額は順調に上昇しており、この6年間で**40%UP**しました。

- 特に共同研究と受託研究での獲得額は上昇しています。
- この6年間で、共同研究は**90%UP**、受託研究は**85%UP**しました。
- この数値からも他機関との研究が活発になってきたことが伺えます。

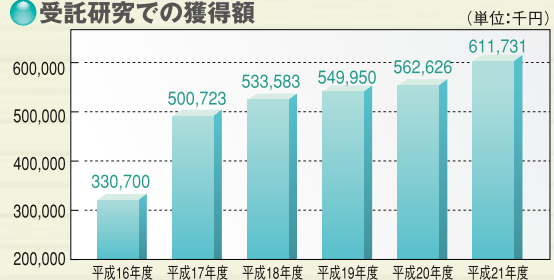


### Pick Up

#### 共同研究での獲得額



#### 受託研究での獲得額





# 診療について



理事 柏木厚典

重症循環器疾患の増加、救急車搬入件数の増加、周産期医療の充実、手術件数の増加が特徴的です。

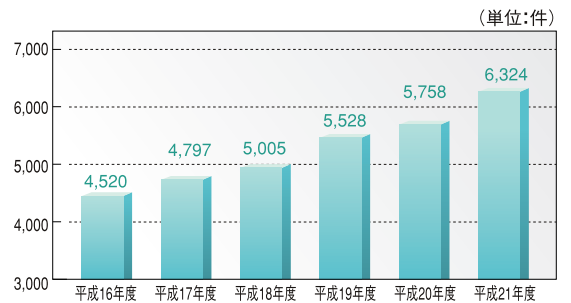
本院の特色である重症心臓血管外科手術対象の患者さんが、県内外の病院から紹介され、平成21年度の手術件数は、285件となりました。また、難治性不整脈治療件数も、246件と高い値を維持しています。並行して、不整脈疾患の遺伝子解析も行われ、本院の特色となっています。

平成21年度は、がん診療高度化を目指した強化元年として、総合がん治療学講座を開設し、腫瘍内科も設置しました。今後は、がんに関する先進医療を推進致します。



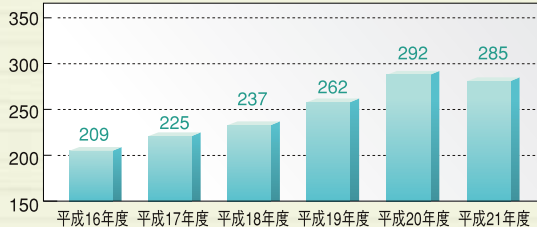
## Data 手術件数

- 手術数は年々増加しています。
- 平成21年度には新手術棟が完成し、手術室が増室されました。
- 今後は、年間最大7,000件に達することが期待できます。

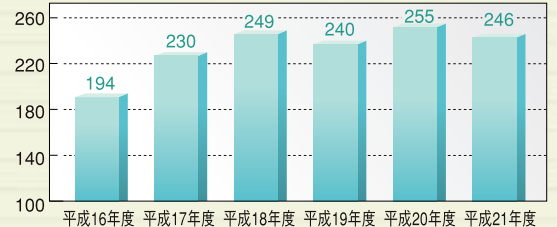


### Pick Up

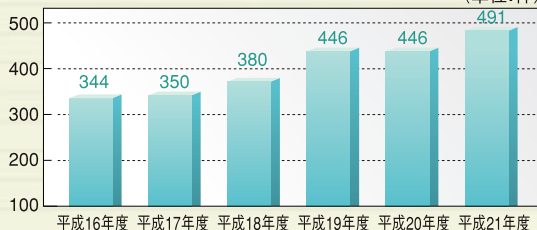
#### ● 心臓血管外科 心臓手術件数 (単位:件)



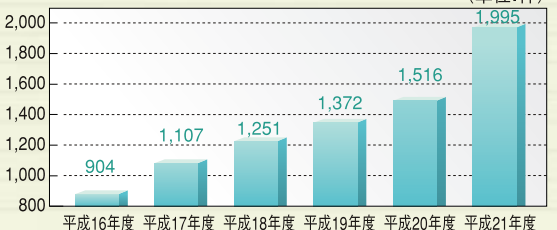
#### ● 循環器内科 不整脈治療件数 (単位:件)



#### ● 母子・女性診療科手術件数 (単位:件)



#### ● 眼科手術件数 (単位:件)



Topics

6年間の先進医療

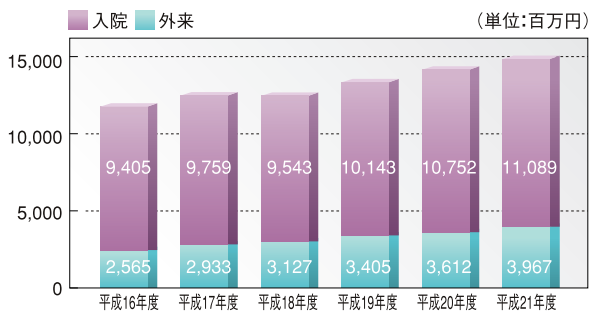
先進医療の実践

先進医療名	内容	承認日(算定開始)	現況(H22.5.1現在)
1 内視鏡下頸部良性腫瘍摘出術	最小限の切開により内視鏡下で腫瘍を摘出します。	H11.07.01	H20.3月末取り下げ
2 インプラント義歯(インプラント治療)	失ってしまった歯の代わりに人工の土台(インプラント体)を埋め込み、その上に人工の歯を作製し、欠損を回復させます。	H16.11.01	H20.3月末取り下げ
3 自動吻合器を用いた直腸粘膜脱又は内痔核手術(PPH)	内痔核の上の直腸粘膜を切除し、痔核を正常な位置へと吊り上げ縮小させます。	H18.11.01	H20.4月保険適用
4 強度変調放射線治療	がん放射線治療での新しい工夫で、副作用を増加させることなくより強い放射線を腫瘍に照射させます。	H18.11.01	H20.4月保険適用
5 <sup>31</sup> P-磁気共鳴スペクトロスコピーとケミカルシフト画像による糖尿病性足病変の非侵襲的診断	患者さんの負担の少ない方法で足病変の診断を早期かつ正確に行います。	H16.08.01	実施中
6 樹状細胞と腫瘍抗原ペプチドを用いたがんワクチン療法	がん細胞を攻撃するリンパ球を増やす働きのある樹状細胞を培養して注射します。本院では、肺がん・乳がんが対象疾患です。	H17.06.01	実施中
7 HDRA法又はCD-DST法による抗悪性腫瘍感受性試験	患者さんから採取した腫瘍組織を用いて検査し、個々の患者さんに最適な抗がん剤の選択・投与を行います。本院では、消化器がん・乳がん・転移性肝がん・転移性肺がん・がん性胸膜炎が対象疾患です。	H17.12.01	実施中
8 腫瘍性骨病変及び骨粗鬆症に伴う骨脆弱性病変に対する経皮的骨形成術	骨粗鬆症等に対する骨セメント注入治療で、骨の強度を回復させます。	H19.06.01	実施中
9 超音波骨折治療法	手術が必要な腕や脚の骨折に対して行う治療で、術後微弱な超音波を骨折部位の皮膚の上から当て、回復を早めます。骨がつくまでの期間を約40%短縮できます。	H20.04.01	実施中
10 悪性黒色腫におけるセンチネルリンパ節の同定及び転移の検索	悪性黒色腫の手術前に、最初に転移を起こす可能性の高いリンパ節を見つけ出して調べることで、小さな転移を早期に発見することができます。	H21.12.01	H22.4月保険適用
11 隆起性皮膚線維肉腫の遺伝子診断	隆起性皮膚線維肉腫の精度の高い診断が可能になり、必要な手術を受ける決断の助けになります。	H21.12.01	実施中

Data

診療報酬請求額

- 「診療報酬」とは、保険診療の際の医療行為の対価として、医療保険から支払われる報酬です。
- 患者数及び診療単価の増加等に起因して、**順調に増加**してきました。



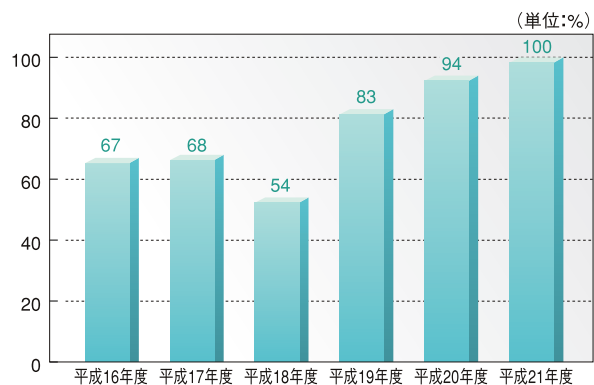
診療単価とは

患者さん1日1人当たりの診療費で、本院では、治療困難な症例の増加により、増加しています。

Data

研修医の確保(マッチング率)

研修医の獲得が厳しい状況の中、平成21年度スタートの研修医では**マッチング率100%**を達成しました。



# 病院再開発ハイライト

## 高度先進医療を提供する インテリジェント病院を目指して

建物・施設の老朽化が進み、また医療をめぐる環境が大きく変化したことから、附属病院の再開発計画を実施することとなり、平成15年度より検討を開始し、平成17年度より再開発工事を開始しました。

### 病院再開発のコンセプト

- 機能集約型病院……各診療科の専門家が集まり、議論を重ねた上で、最短で最適な医療が行われる体制を構築します。
- 地域密着型病院……地域に密着した病院づくりをするため、救急医療体制を整備し、教育研修機能を充実します。
- 医療安全推進病院……安全対策、危機管理体制を強化し、患者さんの安全確保に万全を期します。

### ● D(新)病棟

建設工事着工(平成18年2月)→完成(平成19年8月)



個室大幅増

びわ湖が見渡せる食堂



### ● A病棟

【東側】:改修完了(平成21年5月) 【西側】:改修完了(平成21年10月)



5A 小児病棟の廊下は天井・壁・床一面楽しく暖かい絵でいっぱいです。

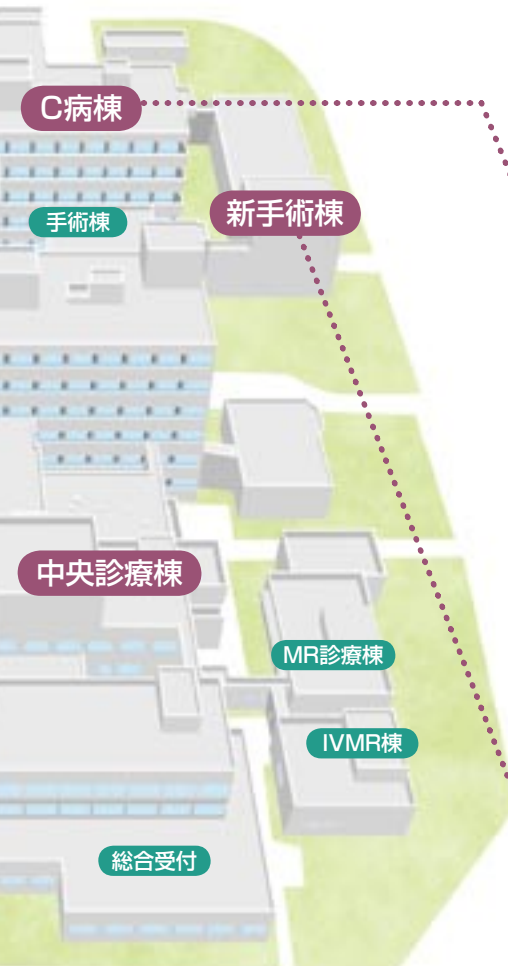


NICUを9床・GCUを6床に増床しました。さらに平成22年度にはGCU6床を追加の予定です。

### ● 外来棟・中央診療棟







●更新認定証

日本医療機能評価機構が実施する病院機能評価の更新認定を無条件で取得し、施設認定証を受けました。  
(平成21年5月1日)

●C病棟 改修完了(平成20年6月)



回復期リハビリテーション病棟を新たに開設

●新手術棟 増築完成(平成21年10月)



手術室が10室→14室に増設



平成21年11月には、滋賀県選出の国会議員等の来賓をお招きし「新手術棟・小児病棟完成内覧会・懇談会」を実施しました。

改修中(平成21年12月～平成24年3月)



現在、順次改修を行っています

# 地域貢献について

Data

## 高大連携事業

- 医学・看護学を身近に感じてもらえるように、医学や医学につながる基礎的な学問についての講義や実習を行うとともに、医療従事者の使命や働きがい、地域医療の現状と課題等についても講義を実施しました。
- 当該高校を含む県内高校からの医学科（推薦）および看護学科（推薦・一般選抜）への志願者・入学者は増加しました。

### 高大連携事業について

- 平成20年7月、膳所高校及び虎姫高校と高大連携事業の事業協定を締結しました。
- 高校生が医学に関する教育・研究に触れる機会を提供し、将来の目標実現に向け生徒の資質・能力を高めることを目的としています。

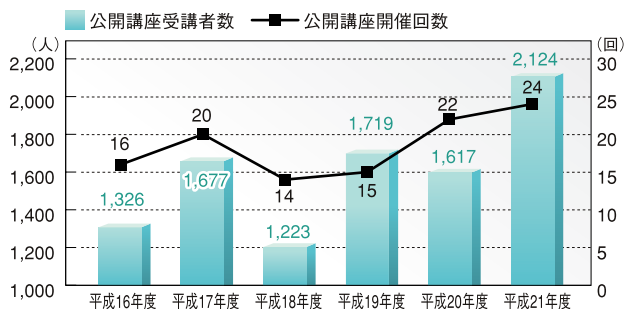


年度	高校名	授業回数	参加者数	
平成20年度	膳所高校	理数科	1	40
		普通科	6	22
	虎姫高校	2	28	
平成21年度	膳所高校	理数科	1	40
		普通科	9	33
	虎姫高校	2	24	

Data

## 公開講座の開催

- 地域社会の方々への生涯教育を、医療人育成教育研究センター生涯学習支援室で企画し実施しています。
- 平成20年度と21年度には、公開講座の開催回数と受講者が増加しました。



Topics

## 産学官連携による地域貢献事業

近隣大学や民間企業及び自治体と連携し、本学の特徴を活かした地域貢献事業を実施しました。

### 地域貢献の取組

- 都市エリア産学官連携促進事業で「患者負担軽減のためのオンライン診療システムの開発」を実施
- 医療廃棄物の効率的な処理を目指した民間との共同プロジェクト「ゼロエミッションプロジェクト」を推進
- JST(科学技術振興機構)・滋賀県・地元企業と連携し、「アルツハイマー病のMR診断薬の開発」研究を推進
- 滋賀大学・龍谷大学・立命館大学・地域企業と連携し「眠りの森」事業を推進し、市民講座や睡眠指導士の育成などの活動を展開
- 草津市とあおばなを用いた健康食品の開発
- 企業等の研究者に広く門戸を開き産学官連携をより一層進めることを目的にレンタルラボ・オフィスとして「バイオメディカル・イノベーションセンター」を設置



平成21年7月6日  
都市エリア産学官連携促進事業  
平成21年度研究計画発表会が  
行われました。

# 業務改善について



理事 脇坂信夫  
(平成22年3月まで)

業務運営の改善や効率化について、第1期中期目標期間を振り返れば、注目すべきものとして評価された事項、また逆に今後の取組に改善の余地がある事項などがありました。改善の指摘をされた事項については、学内構成員の理解と協力を得て翌年度には確実に対策をとってまいりました。

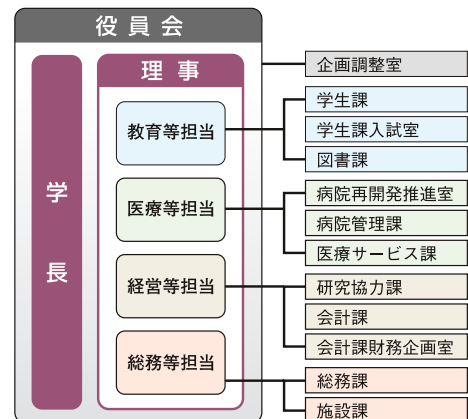
一方で、中期計画や年度計画とは異なった次元で、継続的に実施されている日常業務においても、不断の見直しや改善が行われました。評価結果は無論重要ですが、改善の必要性やプロセスを構成員が共有して、併せて、今後の活動に向けた環境づくりが重要と考えます。

今後とも大学の使命のより良い発揮のために、業務運営の迅速性、効率性、教職員の志気向上の観点から業務の改善、効率化に取り組んでまいります。

## Topics

### 事務組織の改善と効率化

- 平成17年度に事務局制を廃止し、理事直結型としました。
- 平成18年度には、より一層事務組織のスリム化とスピーディな対応を可能とするため、部長制を廃止しました。
- 法人化後は、事務職員も自ら企画・提案し大学の活性化に貢献することが求められており、事務組織の横断的な取組を推進するため、理事をトップとしたプロジェクトチームを立ち上げ課題に対応した取組を実施しています。
- 今後は、さらに理事直結型を強化し、事務の簡素化、事務職員を戦略的な配置、キャリア形成の道筋提示を行い、組織力の強化を図っていきます。



## Topics

### 業務改善ポスター発表会

- 各部署における業務の改善状況を全学で共有し、さらなる業務改善に向けての動機付けとなるよう、また相互の改善に役立てられるよう、学長の発案により、第1回目の業務改善ポスター発表会を平成21年度に開催しました。
- 各部署がそれぞれ作成した業務改善事例ポスターを期間中掲示するとともに、発表者の説明及び全体討論会が行われました。
- 全体討論会では、「このような取り組みを今後も継続し、各部署が互いに良い影響を与えあいながら、大学全体として、業務改善に取り組んでいくことが重要」という意見がありました。



学内外4名の審査員による審査が実施され、全20件のポスターの中から各賞が選出されました。

#### 👑 最優秀賞



#### 栄養治療部

エネルギーコスト削減への取組

#### 👑 グッドデザイン賞



#### 病院管理課

職員証を使った参加者の受付や集計の効率化



# 財政について

## 貸借対照表

- 平成16年度と比較すると本学が保有する**総資産は、34,256百万円から40,053百万円へと増加**しています。これは、病院再開発事業を始め、バイオメディカル・イノベーションセンター、クリエイティブモチベーションセンター、保育所および医療機器等の設備投資によるものです。
- 一方、負債総額も17,976百万円から23,002百万円と増加していますが、これは借り入れによるものであり、今後の債務償還額の増加を示しています。

資産の部		負債の部	
<b>I 固定資産</b>	27,878	<b>I 固定負債</b>	12,935
1 有形固定資産	27,864	資産見返負債	3,097
土地	10,163	債務負担金	7,405
建物	10,789	長期借入金	1,281
構築物	766	退職給付引当金	4
工具器具備品	4,690	長期リース債務	1,111
図書	1,435	その他	37
建設仮勘定	10	<b>II 流動負債</b>	5,041
その他	11	運営費交付金債務	88
2 無形固定資産	14	寄附金債務	847
特許権	0	前受委託研究費等	29
ソフトウェア	9	1年以内返済予定債務負担	765
その他	5	1年以内返済予定長期借入	508
3 投資その他の資産	0	未払金	1,796
投資有価証券	0	賞与引当金	189
<b>II 流動資産</b>	6,378	リース債務	460
現金及び預金	3,900	その他	359
未収学生納付金収入	4	<b>負債合計</b>	17,976
未収附属病院収入	2,156		
その他未収入金	9		
有価証券	0		
たな卸資産	10		
医薬品及び診療材料	294		
前払費用	1		
その他	4		
<b>資産合計</b>	34,256		

資産の部		負債の部	
<b>I 固定資産</b>	32,003	<b>I 固定負債</b>	16,604
1 有形固定資産	31,174	資産見返負債	2,926
土地	10,163	債務負担金	4,539
建物	14,367	長期借入金	8,457
構築物	502	退職給付引当金	54
工具器具備品	3,897	長期リース債務	578
図書	1,485	その他	50
建設仮勘定	743	<b>II 流動負債</b>	6,398
その他	17	運営費交付金債務	467
2 無形固定資産	29	寄附金債務	1,011
特許権	2	前受委託研究費等	85
ソフトウェア	17	1年以内返済予定債務負担	618
その他	10	1年以内返済予定長期借入	87
3 投資その他の資産	800	未払金	3,279
投資有価証券	800	賞与引当金	246
<b>II 流動資産</b>	8,050	リース債務	206
現金及び預金	4,594	その他	399
未収学生納付金収入	2	<b>負債合計</b>	23,002
未収附属病院収入	2,895		
その他未収入金	24		
有価証券	201		
たな卸資産	14		
医薬品及び診療材料	281		
前払費用	22		
その他	17		
<b>資産合計</b>	40,053		

## 損益計算書

- 平成16年度と比較すると事業規模を示す経常費用が18,976百万円から22,064百万円となっています。この主な要因は診療経費および人件費の増であります。
- 一方経常収益が20,291百万円から22,019百万円となっているのは、附属病院収益が約20億円の増となっている他、受託研究等収益、寄附金収益および雑益の増によるものと考えられます。
- 運営費交付金収益総額でみれば、平成16年度と比較して大きな減少はないものと考えられますが、この中に含まれる**基盤的な運営費交付金は、約2億円の減**となっています。

費用		収益	
<b>業務費</b>	18,329	運営費交付金収益	5,313
教育経費	337	学生納付金収益	619
研究経費	1,014	附属病院収益	12,458
診療経費	7,947	受託研究等収益	336
教育研究支援経費	208	寄附金収益	285
受託研究費等	207	補助金等収益	0
人件費	8,616	資産見返負債戻入	429
<b>一般管理費</b>	336	財務収益	0
財務費用	311	雑益	851
<b>経常費用合計</b>	18,976	<b>経常収益合計</b>	20,291
経常利益		経常利益(経常損益)	1,315
臨時損失		臨時損失	262
臨時収益		臨時収益	134
当期純利益		当期純利益	1,187
目的積立金取崩額		目的積立金取崩額	0
当期総利益		当期総利益	1,187

費用		収益	
<b>業務費</b>	21,145	運営費交付金収益	5,431
教育経費	468	学生納付金収益	620
研究経費	991	附属病院収益	14,306
診療経費	9,173	受託研究等収益	699
教育研究支援経費	145	寄附金収益	396
受託研究費等	527	補助金等収益	73
人件費	9,841	資産見返負債戻入	326
<b>一般管理費</b>	609	財務収益	22
財務費用	310	雑益	146
<b>経常費用合計</b>	22,064	<b>経常収益合計</b>	22,019
経常利益		経常利益(経常損益)	△45
臨時損失		臨時損失	10
臨時収益		臨時収益	20
当期純利益		当期純利益	△35
目的積立金取崩額		目的積立金取崩額	374
当期総利益		当期総利益	339



理事 村山典久

第一期中期目標計画期間においては、資産規模、事業規模とも大幅に拡大し、本学は財務の視点からも大いに飛躍していることが伺えます。

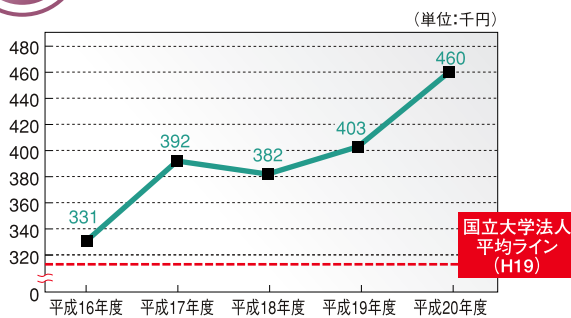
第二期中期目標計画期間については、継続的な運営費交付金の削減が続き、極めて厳しい財務状況になることが想定されます。しかしながら引き続き大学の本分である教育・研究・診療事業の活性化に財務面からも寄与していくとともに、約130億円の負債総額（債務負担金、長期借入金）についても円滑に返済できるような財務マネジメントを実施していきます。

また、暫定評価においても高く評価されました節減対策、ESCO事業およびコスト構造改革等を継続し、社会の目線に立った効率的な大学運営も目指していきます。

皆様方の引き続きのご支援・ご協力の程よろしくお願い致します。

## Data

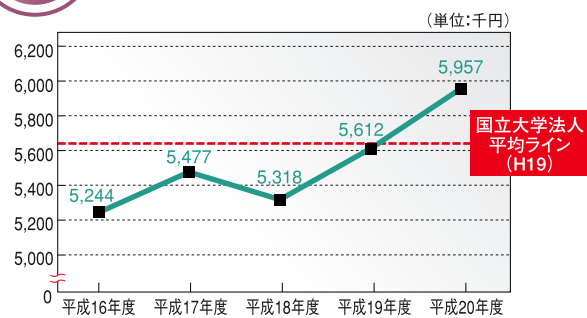
## 学生一人当たりの教育経費



- この数値が大きいほど学生一人当たりにかけられる教育経費が高いことを示します。
- 学部の特性もありますが、本学では平均ラインを大きく上回っています。

## Data

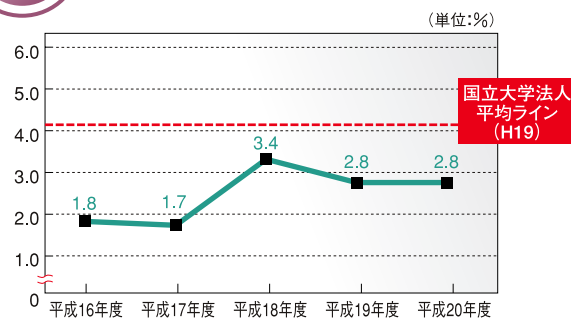
## 常勤教員一人当たりの研究経費 (受託研究・科研費含む)



- この数値が大きいほど研究活動で使用される経費が大きい、すなわち、財務的に研究活動が盛んなことを示します。
- H20年度には平均ラインを上回り、研究活動の活性化が図られたことが伺われます。

## Data

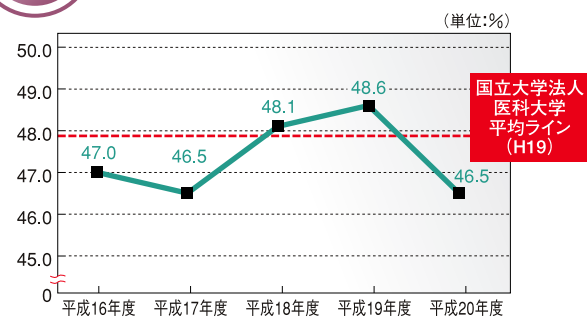
## 一般管理費率 (一般管理費/経常費用)



- この数値が大きいほど管理的経費が高いと判断されます。
- 本学の管理費は、他の国立大学法人と比較して、効率性が高いと評価されました。

## Data

## 人件費率 (人件費/業務費)



- この数値が高いほど労働集約的な費用構造にあると判断されます。
- 本学の人員費率については、ほぼ他の医科系国立大学と同レベルで推移しております。

# 独自の取組事例集

## Topics

### 節減対策WGの活動



経費節減・環境問題等への取組は、全構成員が省エネルギーの重要性を理解し、一致団結して取り組むことが必要であるとの観点から、本学では、教職員で構成された節減対策WGにより全学的な節減対策に取り組んでいます。

#### 主な取組事例

##### 1 もったいない見回り隊

「もったいない見回り隊」による学内及び院内の巡回

##### 2 情報収集分析室

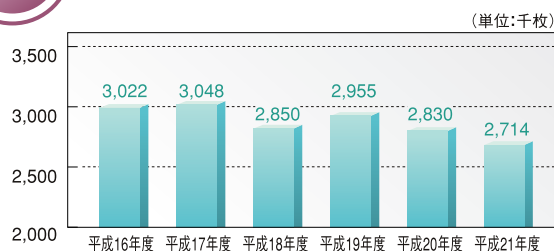
情報マネージャーの協力の下に「業務IT化ペーパーレス化ヒアリング」を実施

##### 3 ペーパーレス化の対策

- スクリーン会議の推奨（会議資料を配付せず、スクリーンに投影して会議を行う）
- コピー枚数削減の目標値を定め、コピー機に掲示
- 両面印刷、2アップ印刷、ミスコピーの再利用の推奨
- 通知文書等のメールでの回覧
- 入札情報の電子化
- アンケートのWEBでの実施
- 独自開発のシステムなどを活用したWEB上での情報共有

## Data

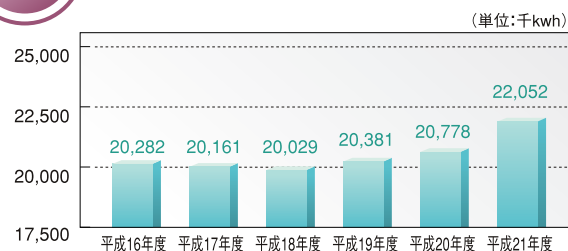
### 事務部門におけるコピー機使用枚数



会議資料の節減等の効果により順調に減少し、この6年間で**10% DOWN**と大きく削減することができました。

## Data

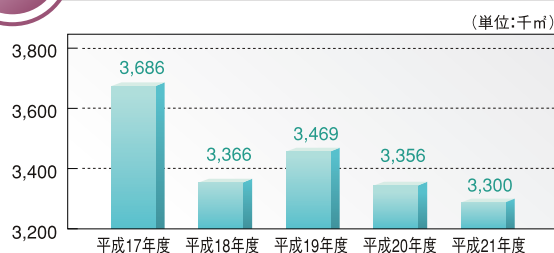
### 電気使用量



わずかですが、使用量は増加してしまいました。病院再開発にともない病棟や居室が増えたことが主な原因と考えられます。

## Data

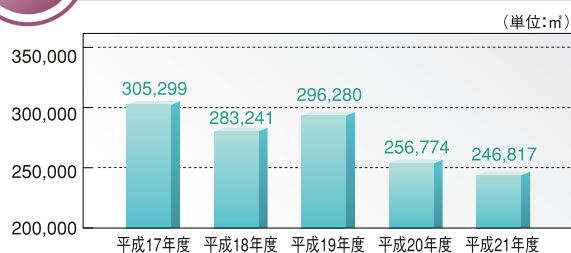
### ガス使用量



冷暖房の使用量に大きく影響される数値です。この5年間で**10%削減**することができました。

## Data

### 水道使用量



平成17年度には、全水道に節水コマを設置しました。その効果もあり、この5年間で**20%削減**することができました。



Topics

学内ESCO事業



本取組は、財団法人省エネルギーセンター主催「平成19年度省エネルギー優秀事例全国大会」において「省エネルギーセンター会長賞」を受賞しました。

省エネルギー対策の取組とし、平成18年度から「学内ESCO事業」を展開しています。本事業は外部ESCO事業者が実施するのではなく、本学のシステム、運用に沿った独自の省エネルギー事業を実施し、その事業で削減できた光熱水費を次の省エネルギーの事業に活用していくものです。

主な取組事例

- 蒸気配管放熱対策
- ボイラ給気用送風機回転制御
- 空調インバータ制御
- 節水型便器の設置
- 照明器具の設置
- 白熱電球の交換
- 外灯灯具の交換
- 蒸気バルブの保温対策

● コスト削減効果

年度	効果
平成18年度	14,403千円
平成19年度	30,831千円
平成20年度	42,333千円
平成21年度	53,429千円

4年間で約1億4千万円の効果がありました。

Topics

独自システム“進捗ナビ”の開発・運用



● 進捗ナビとは…

中期目標・中期計画・年度計画をデータベース化し、従来はExcelを配付・回収して進めていた計画作成、評価作業をオンラインで行うことを可能にしたシステムです。

また、次期中期目標期間に向け、さらなるバージョンアップを行う予定です。

導入の主なメリット

1 情報の共有化・進捗状況の明確化

評価情報の一元管理を実現し、学内から誰でもwebブラウザを使って最新情報を確認できるようになりました。

2 作業の効率化

これまでに要していた事務作業のうち約21人日/年を削減できました。

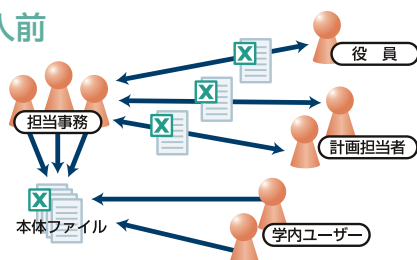
3 ペーパーレス化

各担当者への調査表配付や会議資料を必要最小限とし、紙使用量を79.2%削減しました。

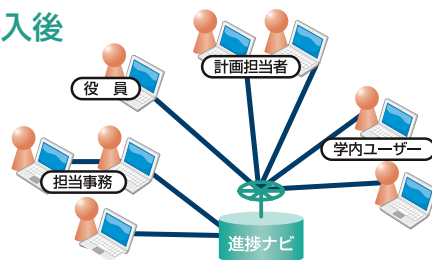
4 低コスト

評価担当の事務職員2名で構築したため、導入コストを抑えることができました。

導入前



導入後



# 暫定評価結果について

## ● 全体評価



## 文部科学省の国立大学法人評価で 86国立大学中 2位

滋賀医科大学は、医療機関や医療情報のネットワーク構築が求められているなどの滋賀県の地域の特徴を考慮しつつ、独自の新しい医学・看護学の教育・研究を推進するとともに、その成果を国内はもとより世界に発信し、医学・看護学の発展に貢献すること及び高度な医療を提供することにより、人々の福祉の向上に寄与することを目標としている。こうした目標の下、役員会主導により課題や対応状況等をウェブサイト等を活用して可視化しており、中期目標の達成に向け、関係者が一体となって意欲的に取り組んでいる。

中期目標期間の業務実績の状況は、「その他業務運営に関する重要目標」の項目で中期目標の達成状況が非常に優れているほか、それ以外の項目で中期目標の達成状況が良好又はおおむね良好である。

## ● 特色ある取組として評価された事項



- アドバイザー制度による学習相談等を実施するとともに、新たな社会的ニーズに対応した学生支援プログラム「地域『里親』による学生支援プログラム」において、入学初年より卒業生や地域の方々が学生の成長を支援する里親バンクを設立し、卒業生と地域が一体となって学生を支援する体制を整備している。
- 経営協議会委員からの意見を取り入れ、四半期ごとの財務分析について経営効率の観点から人件費、一般管理費及び診療経費が収益に占める割合の分析を行うとともに、短期運用による資産運用を実施している。
- 評価作業等に係る作業の効率化・合理化のため、平成18年度に大学独自に開発し試行した「目標・計画進捗状況管理システム」（進捗ナビ）を本格稼働し、平成19年度は紙使用量を79.2%節約するなどの効果が現れている。
- 学内 ESCO（Energy Service Company）事業を実施し、平成19年度エネルギー優秀事例全国大会（財団法人省エネルギーセンター主催）において、「省エネルギーセンター会長賞」を受賞するなど、省エネルギー対策や環境に配慮した取組を継続的に実施している。

## ● 評価委員会ホームページURL

業務の実績報告書及び評価結果については以下に掲載しています。

<http://www.shiga-med.ac.jp/~hqhojin/>

## ● 中期目標の達成状況に関する評価結果 (平成16～19年度)

項目	本学の評価	全法人(90法人)の評価結果					
		5	4	3	2	1	
1 教育研究等の向上の状況	① 教育に関する目標	3	1	10	79	0	0
	② 研究に関する目標	4	3	27	60	0	0
	③ その他の目標	4	2	34	54	0	0
	④ 附属病院に関する目標	※注目される点	—	—	—	—	—
2 業務運営・財務内容等の状況	① 業務運営の改善・効率化の目標	4	11	56	18	5	0
	② 財務内容の改善に関する目標	4	3	83	1	3	0
	③ 自己点検・評価の情報提供の目標	4	2	84	2	2	0
	④ その他業務運営の重要目標	5	2	75	11	2	0

### 【評価の基準】

- 5：目標の達成状況が非常に優れている。
- 4：目標の達成状況が良好である。
- 3：目標の達成状況がおおむね良好である。
- 2：目標の達成状況が不十分である。
- 1：目標の達成のための重大な改善が望まれる。

### 【※注目される点】

- 産科オープンシステムや新生児医療の充実など社会的ニーズの高い医療に取り組んでいる。
- 自動穿刺ロボットの開発等、高度治療の開発の推進に努めている。
- [医療研修部]を設置し、コ・メディカルスタッフ等の専門資格の取得を積極的に推進している。
- 収益拡大に向けた施策を実施し、附属病院収入を増収させている。

## ● 教育研究の水準や質の向上に関する評価結果 (平成16～19年度)

項目	評価	
1 教育の水準の状況	① 教育の実施体制	3
	② 教育内容	3
	③ 教育方法	3
	④ 学業の成果	3
	⑤ 進路・就職の状況	3
2 研究の水準の状況	① 研究活動の状況	3
	② 研究成果の状況	3

### 【評価の基準】

- 4：期待される水準を大きく上回る。
- 3：期待される水準を上回る。
- 2：期待される水準にある。
- 1：期待される水準を下回る。

項目	評価	
質(水準)の向上度	① 教育	3
	② 研究	2

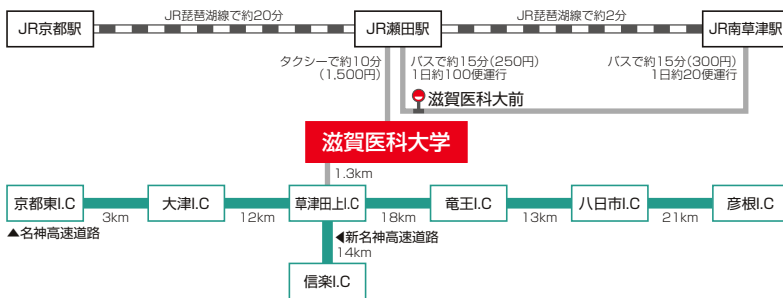
### 【評価の基準】

- 3：大きく改善、向上又は高い質(水準)を維持している。
- 2：相応に改善、向上している。
- 1：改善向上しているとはいえない。





## Access



## ご意見等の連絡先

本学では、地域の皆様からのご意見等を今後の大学運営に活用させていただければと考えています。お気づきの点等がございましたら、下記連絡先までお寄せ下さいますよう、よろしくお願いたします。

滋賀医科大学 企画調整室

TEL 077-548-2011

E-mail hqkikaku@belle.shiga-med.ac.jp

住所 〒520-2192 大津市瀬田月輪町

<http://www.shiga-med.ac.jp>



国立大学法人

**滋賀医科大学**

SHIGA UNIVERSITY OF MEDICAL SCIENCE

発行/平成22年6月 編集/滋賀医科大学・企画調整室